囃子楽器

囃子方は3種類の楽器を使います。太鼓（ドラム）、篠笛（竹製の笛）、手振り鉦（手で持つシンバル）です。囃子の演奏は常に太鼓で始まります。太鼓は綱で引き締める形式で、心臓の鼓動にも似た、深い、脈動するようなリズムを刻みます。大型のリヤカーの高い位置に載せ、スポットライトで照らし出すので、太鼓を叩くのにどれほど多くの力とエネルギーが込められているのか、観客によく伝わるようになっています。篠笛が伴奏し、歌うような祭り囃子の特徴的なメロディーを奏でます。また手振り鉦の高い音色が全体を取りまとめるように鳴り響き、囃子のメロディーを引き締めます。ねぶた運行の間中、通常は2種類の主旋律を繰り返し演奏します。

太鼓は囃子方の隊列の中で常に先頭を歩き、その大きな音は山車が見えるはるか前から辺りに轟き、山車が過ぎ去っても長く鳴っています。囃子方の隊列で太鼓の次に来るのが篠笛と手振り鉦です。この2つの楽器は太鼓の伴奏を務めつつ、ハネトが踊るための旋律を奏でる役目があります。手振り鉦はシャンシャンと小さく鳴る、よく目立つ音を生み出します。この音は囃子方が見えなくなるまで長く辺りに鳴り響きます。